



Japan Society of Civil Engineers

International Activities Center

国際センター通信(No.110)

第 3 回日中土木学会ジョイントシンポジウム



写真 1 開会式

2014 年当会の創立 100 周年記念を機に、当時の土木学会長である磯部 雅彦 教授と中国土木学会（Chinese Civil Engineering Society: CCES）副理事長 李 永盛 教授は、両学会間の連携強化を目的にジョイントシンポジウムの実施を相談し、交代でホストを務めることで互いの地を訪れて学ぶ機会を作ることを同意した。それを受けて、両学会の担当者が準備を進め、2016 年 10 月に東京・土木会館にて第 1 回のジョイントシンポジウムを、第 2 回を 2018 年 10 月に上海・同済大学にて開催した。

第 1 回のジョイントシンポジウムは、橋梁とトンネルをテーマにして両国の研究者、実務者が研究発表を行った。また、両学会の担当者が集まり、それぞれの準備や手続きを報告すると同時に、次回のシンポジウムの計画も相談された。まず参加者のネットワーク形成や研究と議論の継続性の確保が検討され、両学会が共通のテーマにてそれぞれ本シンポジウムを 1 回開催することが提案、同意された。

第 3 回目となる今回は、2020 年日本で開催する予定であったが、コロナ禍にあるために 1 年延長し、結果、本年 10 月 20、21 日にオンライン開催となった。

今回はテーマを水工学と海岸工学に絞り、当会は水工学委員会と海岸工学委員会と連携し、CCES は同済大学と河海大学と連携してプログラムを作っていた。結果、4 名による基調講演、7 セッション 37 編の研究発表と特別セッションでの 6 名による講演にて構成する規模と厚みある内容の会合になった。研究発表については、JSCE から 24 編、CCES から 22 編の研究発表があり、特別セッションは、今夏、日本、中国、ヨーロッパ、アメリカの各地で発生した洪水災害を取上げ、日中に加え米国土木学会（ASCE: American Society of Civil Engineers）の研究者を迎えて行った。

初日(20日)は、本行事座長の一人 土木学会国際センター長、田中 仁 教授(東北大学)の司会で始まり、もう一人の座長である同済大学 副学長 顧 祥林 (Gu Xianglin) 教授と当会次期会長 上田 多門 教授(深圳大学)に開会の挨拶をいただいた(写真1)。更に、開会式参加者が今後もジョイントシンポジウムのテーマの方向性を相談するという、通常、会合の開会式では見られない意見交換が行われ、笑いで始まる幸先のよいスタートであった。

次に、京都大学 立川 康人 教授に司会がバトンタッチされて基調講演が進められた。東京工業大学 鼎 信次郎 教授と清華大学 金 峰 (Feng Jin) 教授は、水工学分野における最先端の研究と今後の課題を分かりやすく説明なされ、聴講者の関心を引きつけていた。

その後、休憩を挟み、水工分野と海岸分野の平行セッションが始まった。参加者は、二分野に分かれて各セッション (Zoom room) に入り、研究発表とディスカッションを行った(写真2)。

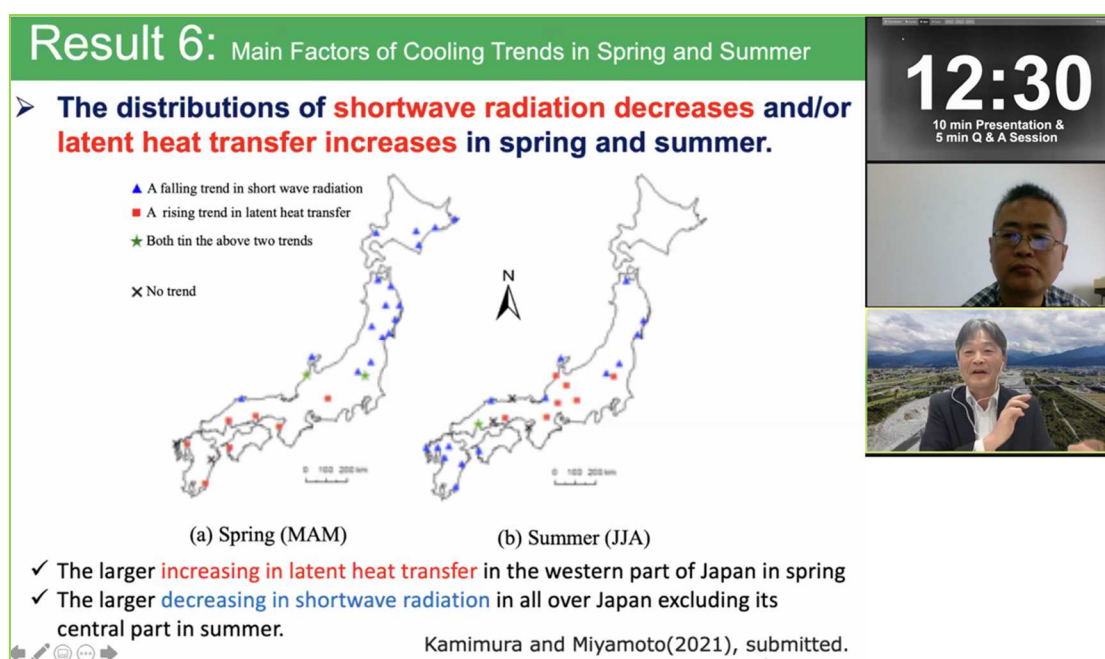


写真2 一般セッション

中国と日本の物理的な距離に関わらず、参加者は ZOOM 上に設けられた擬似空間を共有し、それぞれが研究発表を行い、課題について意見を求め、活発に意見を交わしていた。

平行セッション後は、特別セッション(写真3)を行い、世界各地で甚大な被害をもたらした豪雨洪水について、日本、中国そしてニュージーランドの研究者から洪水の原因、被害状況、各政府の対策を紹介いただき、各国の社会環境や体制、住民の安全確保等を考えながら、今後の災害対応の技術的な課題を議論した。



写真3 特別セッション

翌日 21 日は本シンポジウム組織委員会顧問 張 鋒 教授 (Feng Zhang、名古屋工業大学) の司会進行により、河海大学副学長 鄭 金海 (Jinhai Zheng) 教授と東京大学 佐々木 淳 教授に基調講演をいただいた(写真 4)。



Keynote1 by Prof. Shinjiro Kanae
Chaired by Prof. Yasuto Tachikawa



Keynote 2 by Prof. Feng Jin
Chaired by Prof. Yasuto Tachikawa



Keynote3 by Prof. Jinhai Zheng
Chaired by Prof. Feng Zhang



Keynote4 by Prof. Jun Sasaki
Chaired by Prof. Feng Zhang



写真4 基調講演

閉会式では、本シンポジウム組織委員長 河海大学の陳 達 (Da Chen) 教授より本シンポジウムの総括およびご挨拶をいただいた。最後に、参加者にカメラオンしてもらい記念撮影をして本シンポジウムを終了した(写真 5)。

尚、第 4 回日中土木学会ジョイントシンポジウムは引き続き水工学、海岸工学をテーマに 2023 年に南京にて、第 5 回は 2025 年に再び日本にて、テーマを更に広げて開催しようと計画してい

る。多くの方々に参加いただけるようなプログラムを作っていく。引き続きご支援、御協力をお願いする。



写真 5 閉会式

※本シンポジウムは公益信託土木学会学術交流基金の助成により実施しました。

【記：国際センター 中国グループ 党 紀（埼玉大学）】

世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ 第 19 回シンポジウム 「海外交通インフラ運営の展開に向けて」

2021 年 11 月 9 日、土木学会国際センター主催により、世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ 第 19 回シンポジウム「海外交通インフラ運営の展開に向けて」が開催されました。これまで同シリーズは、プロジェクトベースにおける日本の土木技術者の活躍をご紹介して参りました。一方で、国土交通省のインフラ海外展開におきまして「川上から川下まで」と称し、建設・整備だけでなく、運営についても日本企業の活躍が求められています。また、BOT など様々な整備スキームがある中、整備だけでなく、運営、メンテナンス等をパッケージとして把握することが我々土木技術者に求められています。そこで、今回は、インフラ管理というテーマのもと各交通セクターの事例等をご紹介することにいたしました。

シンポジウムでは、上田 多門 当会次期会長のあいさつに続き、JICA 民間連携事業部 大和田 慶 主任調査役から開発金融

についての最新情勢をご報告いただきました。(株)熊谷組 大島 邦彦 執行役員、東日本鉄道(株) 川崎 淳司 部門長、(一社)日本港運協会 久米 秀俊 理事からは、道路、鉄道、港湾の分野に関し、BOT 事業、メンテナンス事業、出資事業などの様々な運営形態のご紹介がありました。最後は国際センター 樋口 嘉章 次長による総括が行われました。それぞれのプロジェクトの紹介とともに、活発な質疑応答もあり、内容の濃い 3 時間でした。

本シンポジウムは全面オンライン形式である他、海外インフラ管理に対する興味の高まりもあり、前回は上回る 431 名の申し込みを事前に頂きました。

海外の交通インフラ運営については、新型コロナウイルス感染症により需要確保を課題とするプロジェクトも多いと推察されます。今後、海外交通インフラの健全な発展のため、我々土木技術者も管理運営に目を向け活躍していくことが重要と思われます。

本シリーズは 2014 年の第 1 回の開催以来、次回で 20 回を迎えます。今後とも、充実した内容で開催できるよう、ご支援いただくとともに、開催に関するご意見等お待ちしております。

【記：国際センター プロジェクト Gr.リーダー 鈴木 勝】

アジア土木学協会連合協議会(ACECC) 第 41 回理事会(ワシントン DC)参加報告

1. 概要

ACECC (Asian Civil Engineering Coordinating Council)は、アジア地域の持続可能な社会資本の整備と発展を目的として 1999 年 9 月に設立された組織である。現在は加盟学協会が 15 団体で、土木関連学協会の協力により学術・技術の促進に向けた諸活動を進めている。今回(第 41 回)の理事会は米国土木学会(American Society of Civil Engineers: ASCE)主催で 2021 年 9 月 23、24 日に WEB 会議で開催された(写真 1)。理事会行事に加え、Technical Committee (TC) 主催の 2 つのセミナーと Future Leaders Forum (FLF)が併催された。本稿では、その主な内容について報告する。



写真 1 ECM で挨拶する ASCE の Briaud 会長と会議

2. 技術調整委員会 (Technical Coordination Committee Meeting: TCCM)

技術調整委員会では、現在活動中の 9 つの技術委員会 (TC) の活動報告があり、それぞれの内容について承認された JSCE が議長国として活動している TC21 (Transdisciplinary Approach for Building Societal Resilience to Disasters) については、石渡 幹夫 TC Chair (JICA・東京大学) より土木学会全国大会において開催された Special Session の開催状況や CECAR9 に向けた活動計画が報告された。

また、JSCE より“Application of Monitoring Technology for Infrastructure Maintenance”と題する新たな TC が提案された。本 TC は、モニタリング技術の有効活用によるメンテナンスの高度化・効率化をアジア圏に広めることを目的としているもので、モニタリングシステム技術研究組合 (RAIMS) からの受託研究として JSCE 技術推進機構 新技術適用推進小委員会がとりまとめたモニタリング指針をベースにしている。TCCM では、本 TC 担当の中野 雅章 委員兼幹事 (日本工営(株)) による提案発表があり、TC28 として無事に了承された。

3. 企画委員会 (Planning Committee Meeting: PCM)

2022 年 9 月にインドのゴアで開催される第 9 回アジア土木技術国際会議 (CECAR9) の準備状況について、コロナ禍が急速に収束に向かっていることから、Local Organizing Committee (LOC) より現地での完全対面式の開催を検討していることが報告された。これについて、加藤 浩徳 委員長より、コロナ禍の収束は不透明なため完全対面式のみの計画にはリスクがあり、WEB とのハイブリッド形式での開催も検討すべきであるという提案がなされ、翌日の ECM で再度議論することとなった。

2022 年 3 月または 4 月に Fed. MES が主催予定であった第 42 回理事会は、ミャンマーの国情の安定がいまだに見込めないことから、インドネシア土木構造工学会 (Indonesian Society of Civil and Structural Engineers: HAKI) が主催することとなった。

4. 理事会 (Executive Committee Meeting: ECM)

ECM では、TCCM、PCM での決定事項が了承された。CECAR9 の完全対面式での開催という提案について、ECM においても山口 栄輝 代表からハイブリッド形式の開催検討の必要性について再度指摘があった。これを受けて、LOC と ACECC 事務局は早急に計画を策定し直し、CECAR9 の開催方式の検討に特化した臨時の ECM を開催し決定することとなった。

5. TC セミナーおよび Future Leaders Forum

TC17 (Ethical Practices to Reduce Corruption) では、ASCE が中心となって ACECC の Code of Ethics の検討が進められており、JSCE からは 小野 智広 委員兼幹事 (JICA) が参加している。本セミナーにおいて、その素案の紹介と意見交換があった。

また、TC14 (Sustainable Infrastructure) のセミナーが前回 ECM に続いて開催された。JSCE からは ACECC 担当委員会 TC14 担当の 福林 良典 委員兼幹事 (宮崎大学) が参加した。今回は、ネパール等 8 カ国から、2021 年 6 月に公開された SDGs の達成度・進捗状況に関する国際レポート「Sustainable Development Report 2021」をもとにした自国の達成度などが報告された。

Future Leaders Forum (FLF) では今後のアジア地域の土木工学の発展を担う若手リーダーの意見交換の場として設けられたもので、JSCE からは ACECC 担当委員会 FLF 担当の Rajali Maharjan 氏 ((一財) 運輸総合研究所) が参加した。今回のフォーラムでは、Future Leaders Committee (FLC) Chair の Ms. Prasanti Widyasih Salri (HAKI) より、FLC メンバー紹介と活動状況、今後の活動方針が紹介された。その後、フィリピンとバングラデシュの代表者が「Innovation in Civil Engineering

from around Asia」をテーマにした取り組みを紹介した。

6. おわりに

ASCE の ACECC 担当として、25 年にわたって ACECC の活動を支えてきた Ms. Meggan Maughan-Brown が 6 月末で引退した。多くの ACECC 関係者から慕われていた Ms. Meggan のこれまでのご尽力に心より感謝したい。また、アジア地域の時間帯に合わせて深夜の時間帯にもかかわらず、今回の ECM を運営した ASCE 関係者に敬意を表する。

【記: ACECC 担当委員会 幹事長 井澤 淳 (公益財団法人 鉄道総合技術研究所)】

お知らせ

【今後の予定】

International Joint Seminar on ADVANCES IN CIVIL ENGINEERING
"Applications of Advanced Materials and Machine Learning in Civil Engineering"
(12 月 4 日開催)
<https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/247>



◆【YouTube 動画公開】

2020 年度土木学会 国際貢献賞、国際活動奨励賞 受賞者インタビュー

- ・国際貢献賞 受賞者 秋山 芳弘様 (日本コンサルタンツ株式会社)
<https://youtu.be/rcOoww5q7hU>
- ・国際活動奨励賞 受賞者 松本 正人様 (NEXCO West-USA)
<https://youtu.be/KfUEHkS8KSs>
- ・国際活動奨励賞 受賞者 清末 文明様 (株) オリエンタルコンサルタンツグローバル
<https://youtu.be/1B1RJwWInoI>

「Open the door wide and bring diverse perspectives into the civil engineering community!」

ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進委員会

<https://committees.jsce.or.jp/diversity/node/78>

◆土木学会会員への一般公募による国際ジョイントセミナー・国際シンポジウム等への助成 (応募案内)

<https://committees.jsce.or.jp/iefund/node/20>

◆ドボコレミュージアム

<https://www.jsce-dcm.com/>

◆土木学会デザイン賞

<http://design-prize.sakura.ne.jp/>

◆「海外インフラプロジェクトアーカイブス (JSCE ウェブサイト英語版)」

<http://www.jsce.or.jp/e/archive/>

◆第 5 回 JAPAN コンストラクション国際賞 国土交通大臣表彰

(応募締切：1月17日まで)

<https://www.mlit.go.jp/JCIA/>

- ◆【YouTube】江戸時代の人々もびっくり！日本のインフラ技術 ～JAPAN コンストラクション国際賞～
https://youtu.be/MIYqum_Ao48

- ◆ICHARM Webinar 2021

https://www.pwri.go.jp/icharm/special_topic/ICHARM_webinar_2021_j.html

- ◆米国土木学会(ASCE) 関連

・ASCE Lifeline Conference 2021 2022 日程変更 2022年1月31日-2月4日

<https://samueli.ucla.edu/lifelines2021/>

・日米合同シンポジウム「インフラ・レジリエンスのための評価・管理・ガバナンス」*シンポジウム録画の視聴可能

<https://www.infrasil.jp/event/01/>

- ◆「旅に出たくなる日本の土木遺産」大河津分水 SNS 投稿まとめ (土木学会 note)

<https://note.com/jsce/n/nc7d5a9096192>

- ◆第174回論説(2021年11月版) オピニオン

(1) モネたちの復興

<https://note.com/jsce/n/n9c1bada0d6b2>

(2) 現場第一線に携わる土木技術者としてのインフラ DX に対する心構え

<https://note.com/jsce/n/na8d72760b0d8>

- ◆一般社団法人 海外建設インフラ協会: <http://o-ira.com/>

※「アジア経済新聞」(隔月曜日発行)土木会館に於いて閲覧可能。

- ◆「国際センターだより」※JSCE ウェブサイト (日本語版)

http://committees.jsce.or.jp/kokusai/iac_dayori_2021

- ◆土木学会誌 2021年12月号 ※JSCE ウェブサイト (英語版)

<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>

配信申し込み

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム

- ・日本語版: (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・英語版: (<http://www.jsce-int.org/node/150>)

英語版 Facebook

直近の国際センターの活動について紹介しています。

(<https://www.facebook.com/JSCE.en>)

【ご意見・ご質問】JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

皆様のご意見やコメントをお待ちしております。